２０１８年度

おむすびころりん愛知　事業報告書

――外国にルーツを持つ子どもと親の読書活動をサポート――

おむすびころりん愛知

ご支援をいただいている方々に心から感謝いたします。
みんなが絵本を楽しめますように。

Tel&Fax：0565-85-8626
omukoroaichi@gmail.com
https://omukoro.jimdo.com/
https://www.facebook.com/omusubikororinaichi/?pnref=story

Ⅰ．活動の記録

Ⅰ）　読み聞かせスタッフの派遣

① ブラジル人学校（エスコーラ・ネクター）へ

おきにいりの絵本「ティッチ」

思い思いの絵本を手に取って

「一年をふり返って」中野美智子

ブラジル人学校エスコーラ・ネクターで週に１回３０分程度読み聞かせを行いました。子どもたちは４歳から１２歳までと年齢の幅が広く、また入れ替わりも結構あり日本語がほとんどわからない子どもが増えました。名前を覚えるのも大変でした。担当の先生も変わり日本語での会話ができない中での選書に苦労しました。

読み聞かせは日本語でのこだわりを一部やめてポルトガル語で絵本を読んでもらいました。子どもたちも素直に心に響いているのが伝わりました。これからの課題は年齢に関係なく受け入れられる選書です。単に「読み聞かせ」にいくのではでなく、遊びの要素も必要だなと感じました。「ぺんぎんたいそう」「ぴょーん」は体も動かせて楽しい絵本だと感じました。月に１回猿投台交流館多目的ホールでの「読み聞かせ」も場所が広いと言うこともあり子どもたちがのびのびした様子がみられ来年度も継続することにしました。

② NPO トルシーダとの協働（豊田市、みよし市）

「保見団地での読み聞かせを通して」小野則子

NPO トルシーダが保見団地内で行っている日本語教室にお邪魔して、月に一度読みきかせを行いました。そこでは主に、小学校低学年の男の子３人がブラジル人学校を終えた後、日本語の勉強をしていました。学校でも家庭でも日本文化にあまり触れていないこれらの子どもたちのたちに、日本の昔話を読んでほしいとのリクエストがありました。ところが、やさしい日本語で言い換えて読み聞かせても、あまり反応はよくありませんでし

た。ところがある日、ポルトガル語で書かれた桃太郎のお話を、ブラジル人スタッフにて読んでもらってみたところ、子どもたちは大喜び。母語の読み物の重要性を思い知らされるエピソードでした。

「一年間をふりかえって」岩本道子

NPO トルシーダが運営するみよし市の教室で、春夏冬のお休みを除き月平均 2～3 回各 45 分程度の活動（読み聞かせと自由閲覧）を行いました。今年度は子どもの数が増え、小学校 1～2 年生が常時 12 人前後、時には大きな子どもも混じる活動になりました。子どもたちの年齢やレベル差が今まで以上に大きくなり、一層選書に困りました。そこで、昨年度の勉強会講師：鈴木先生のお話をヒントに、「楽しい時間を！」を第 1 目標にしました。絵やストーリーは子どもたちに合っていても文章が難しい時にはわかりやすい文章にしたり、文章にはこだわらず子どもたちと話しながら進めたり、時にはストーリーに沿いながら途中クイズを出したりと、読み聞かせとは言えない活動もしてみました。自由閲覧では、母語の絵本を持って行ったり、その絵本の内容を子どもに私が日本語で教えてもらったりもしました。年度末には、子どもたちが待っていてくれるようになったことは、目標をある程度達成できた証かな…とうれしく感じることができました。

２）勉強会の開催

第一回　7月12日「大きな子どもも絵で見て楽しめる絵本」　　豊田市民活動センターで

講師は昨年度も幾度かお願いした子ども読書活動推進員の古岸裕美子さんでした。私たちの読み聞かせ対象者に多くみられる、小学生以上でありながら日本語能力がまだまだの子どもたちへの選書は、常に悩みの種です。日本語がわからないからといって内容が幼稚であってはなりません。絵の大きな力を最大限利用した、少し大きな子どもたちが興味をそそられそうな本をたくさん紹介していただき、今後の選書の際の大きなヒントになりました。

第二回　9 月 7 日「継承語をめぐる諸問題について」　　豊田市男女共同参画センターで

昨年に引き続き、継承語の専門家である鈴木崇夫氏に講師をお願いし、その著書「外国につながりのある子どもの乳幼児期とことばの習得について」をテキストに、様々な疑問や活動における問題点などをぶつけました。その中で、外国にルーツを持つ子どもにとっていかに継承語保持が重要であるか、そしてそのためには、親の覚悟と努力がいかに大切かを知ることができました。これは支援者である私たちにとって、今後の活動を考える際の大きな指針になりました。

３）猿投台交流館おはなし教室の開催

およそ月に一回、猿投台交流館の多目的ホールでおはなし教室を開催しました。江口さんの迫力ある読み聞かせに、子どもたちは大興奮です。大きなホールで、体を動かす活動もたくさんしました。

４）他団体へのスタッフならびに講師派遣

①おはなし会　（鈴鹿市　FUNFUN サロン）

（公財）三重県国際交流財団の依頼を受け、平成３０年度第１回多言語おはなし会開催のお手伝いをしました。ブラジル、中国、ベトナム、日本の子供たちに、絵本『くれよんのくろくん』をポルトガル語と中国語で通訳さんに読んでもらった後、それぞれの母語の簡単な言葉のゲームをしたりしてから、全体で日本語による読み聞かせをしました。おはなし会は「ブラジルフェスタ　ジュニーナ」の催しの一つとして行われ、ブラジル料理のランチやゲームも楽しみました。おむすびころりん愛知から持って行った各国語版の絵本は、お母さんたちが手に取り大変興味を持ってくれ、どこで借りられるのかと質問も出ました。今後もこのような会を通じて絵本に親しむ機会がますます増えればいいと感じました。（渡邉）

② 紙芝居「だんだらぼっち」をブラジル人学校で

10 月 2 日に昨年度に引き続き、（公財）三重県国際交流財団の依頼を受けて、「MIEF 親と子の多言語おはなし会」開催のお手伝いをしました。小野が制作協力をした多言語紙芝居「だんだらぼっち」を日本語とポルトガル語で読み聞かせをしたり、「だんだらぼっち」のお面を大きな紙で折り紙をしながらつくったりするなど、ブラジル人学校の子どもたちが日本文化を楽しむことができるように工夫をしました。詳しくはメディア掲載の欄でご覧ください。（小野）

５）多言語で育つ子どもとその家族のためのおはなし教室

（Glocal Toyota 共催）　豊田市男女共同参画センター　「キラッ☆とよた」にて

National Institution For Youth Education 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」　体験の風をおこそう

今回の子ども夢基金助成によるおはなし教室の開催に際しては、共催の Glocal Toyota の皆さんの働きかけにより、通訳スタッフのみなさんが、大活躍してくださいました。参加者を募集するためのチラシの翻訳、同じ言語仲間への参加の働きかけ、当日の通訳スタッフとしてのきめ細かい心配りなど、昨年度によりさらにパワーアップした教室が実現できました。この教室開催がきっかけとなり、母語（継承語）の重要性を再認識したり、外国につながる子どもにかかわる人々の連携がより深まったりすることを願っています。

①11 月 17 日（土）体験しよう！多言語読み聞かせ

中国語、韓国語、ベトナム語、モンゴル語、フランス語、日本語などを母語（継承語）とする家族が 15 組以上参加してくださいました。日本語で絵本の読み聞かせをした後に、言語別に分かれて『はらぺこあおむし』で楽しみました。また、多言語で出される果物名前あてゲームや、色とりどりのあおむしの折り紙に挑戦するなど、子どもも大人も楽しめるプログラムとなりました。参加者のみなさんからは、色々な言語に触れられる貴重な機会となったなどとの感想をいただきました。

母語で読み聞かせをする参加者たち。写真は韓国語のグループ

多言語による果物の名前あてゲーム。

それぞれのあおむしの折り紙をもって満足げな子どもたち

②12 月 15 日（土）その色何と言うの？多言語に親しもう！

豊田市男女共同参画センター　「キラッ☆とよた」にて、中国語、韓国語、台湾語、フランス語、ベトナム語、モンゴル語、タガログ語の７か国語による参加者約５０名の大きなおはなし会となりました。歌と各国語の色の名前当てゲーム、『くれよんのくろくん』の読み聞かせ、それから、スクラッチアートでお絵描きと、盛りだくさんのプログラムでしたが、今回は、色の各国語訳をお母さん達に協力して作成してもらったり、参加者のお子さんにエレクトーンで歌の伴奏をしてもらったりと、参加者とスタッフが一緒に作る活動となったような気がします。今後もこの繋がりを大切に活動が続けられればと思います。

色当てゲームで、答えが当たったときは大喜び。

それぞれの国の言葉でのお母さんによる読み聞かせです。

『くれよんのくろくん』にでてきたように、スクラッチアートに挑戦。

6）メディア掲載について

MIEF NEWS　97号

親と子の多言語おはなし会

7月28日に、鈴鹿市社会福祉センターで、親と子の多言語おはなし会を開催しました。今年度は、鈴鹿市の団体「国際子育てサロン　ＦｕｎＦｕｎサロン」による〝ブラジルフェスタ　ジュニーナ〟のイベントで共催しました。

ブラジルと中国につながる親子を中心に35人が参加し、2種類の絵本をポルトガル語・中国語・日本語で楽しみました。その他、「べんぎんたいそう」をしたり、黒いスクラッチシートに絵を描いたりもしました。

活動後は、おいしいブラジル料理をいただきながら、参加者同士が親子でおしゃべりしたり、遊んだりすることができました。外国人住民が増加する一方で、このように外国につながる親子が集まって交流する機会はまだ多くありません。これからも、よりよい会を提供していきたいと思います。

▲子どもたちはスクラッチアートに夢中

MIEF NEWS　98号

親と子の多言語おはなし会

今年度2回目の多言語おはなし会を、鈴鹿市にあるブラジル人学校 EAS Suzuka で開催しました。幼稚園から小学2年生までの子どもたちとその保護者など、計72人が参加しました。

はじめに、「しあわせなら手をたたこう」を歌いながら、手をたたいたり、足をならしたりしました。次に、MIEF が制作した多言語紙芝居「だんだらぼっち」をスクリーンにうつし、日本語とポルトガル語で読み聞かせしました。日本語は EAS の本間先生、ポルトガル語は同じくアドリエリ先生が、感情豊かに生き生きと語ってくださり、子どもたちはみんな真剣に聞き入っていました。

お話についてのクイズをしたあと、大きな紙で帽子を折って、思い思いのだんだらぼっちを描きました。最後に、帽子をかぶりながらポルトガル語版「しあわせなら手をたたこう」の音楽に合わせてみんなで踊り、とても盛り上がりました。

EAS の先生から「物語は読書への興味や喜びを芽生えさせ、日本の文化を知る機会になった。子どもたちは想像力を使って遊び、学ぶことができた。今後も実施してほしい」と、感謝のことばをいただきました。

MIEF では、今後もこのような多言語による読み聞かせ活動を県内で広めていきたいと考えています。また、多言語紙芝居「だんだらぼっち」を外国につながる子どもたちに関わる団体に無償で提供しております。

多言語おはなし会を開催したいと考えている、もしくは紙芝居をご希望の団体様は、ぜひ MIEF までお問い合わせください。

◀だんだらぼっちの帽子、似合うかな？

月刊なごや 3 月号

随　想
OCCASIONAL　THOUGHTS

外国にルーツを持つ子どもと絵本を読む楽しみ

小野則子

「おむすびころりん愛知」代表（愛知県豊田市在住）

日本語指導員、「とよた日本語学習支援システム」プログラム・コーディネーター、外国にルーツを持つ子どもと親の読書活動をサポートする「おむすびころりん愛知」代表、絵本専門士・食成課程修中、文全日紙写真記者、2016年南山大学大学院教育ファシリテーション専攻課程修了

絵本を使って、外国にルーツを持つ子どもと、その親たちの読書活動を支援しよう――。子どもには心の栄養も必要ですし、親と子の交流も深まるはず。そんな思いから、私は3年前、日本語の学習支援をする身近な仲間を誘って、「おむすびころりん愛知」を立ち上げました。

愛知県には日本語の指導を必要とする外国人児童生徒が七千人余りいて、その数は全国一です（2016年度文部科学省調べ）。私たちの活動の大きな柱は、その子どもたちに絵本を届けたり、読み聞かせをしたりすることです。

私は幼少期、寝る前に祖父から聞かされた昔話を、いまでも宝物として心の奥にしまっています。自分をじっくり相手にしてくれる大人がいた。その記憶が、人生で辛いことがあった時の私を支えてくれました。

最初は祖父に読んでもらった絵本を、逆に自分が祖父に読んでみせた思い出も忘れられません。本は楽しいものだとわかると、次は自分一人で読んでみたくなります。小学校の図書室の絵本、自宅の少年少女向けの文学全集、図書館の一般図書へと、私の小学校卒業までの読書体験はどんどん積み上がっていきました。

子どもが本と出会うためには、最初は大人からの働きかけが必要になります。外国から来た子どもの保護者に接すると、昔話語りや絵本の読み聞かせが家庭内で行われていないと感じることがしばしばあります。

保護者らは「自分の出身国では、絵本はとても高価で子どもに買い与える習慣があまりない」「図書館も閲覧だけで、貸し出しをするところが少ない」と言います。「私たち自身が、親に読んでもらわなかったと言う話もよく耳にします。さらに、夫婦共稼ぎで忙しく、子どもと接する時間が少ないことや、自国の言葉の絵本が手に入りにくいことも、家庭内で読み聞かせが進まない一因だと感じました。この状況に心を痛め、私たちは読書サポートの活動をすることにしたのです。

私たちは週1回、ブラジル人学校にも読み聞かせに行きます。五味太郎作「きんぎょがにげた」のページをめくると、逃げた金魚を探して、子どもたちは「アキー、アキー（日本語で「ここ」の意味）」と言って、絵本に突進してきます。

訪問を始めたころは、「自由に絵本を選んで読んでいいよ」と言っても、絵本で積み木遊びをする子もいました。

そんな子どもたちが、いまでは自分で絵本を選び、一人で読めるようになりました。その成長ぶりを目の当たりにすると、大きな喜びを感じ、支援する側の心も豊かになる気がします。このような活動が他の地域にも広がればと願っています。

▲読み聞かせを楽しむ子どもたちの笑顔。やがて一人で読めるように

おむすびころりん愛知
ホームページ　https://omukoro.jimdo.com/

読売新聞愛知版 2018 年 12 月 3 日

ぴゅ～まん 愛知

外国人の子どもたちに絵本の読み聞かせをする

小野 則子さん 54（豊田市）

楽しく日本語に興味

「おばあさんがおじいさんをひっぱって、おじいさんがかぶをひっぱって、うんとこしょ、どっこいしょ」。有名な絵本「おおきなかぶ」を、引っ張るしぐさをしながら朗読すると、じっと聴いていたブラジル人学校の子どもたちが一斉に目を輝かせた。

外国にルーツを持つ子どもたちへ絵本の読み聞かせを行う豊田市の市民グループ「おむすびころりん愛知」の代表を務める。発足3年で2000人を超える子どもたちに、絵本を読む楽しさを伝えてきた。

絵本の読み聞かせに興味津々の子どもたち

1964年、北海道生まれ。硬式テニスを25年ほど続けている。夫の仕事の関係でこれまで全国を転々としているが、テニスを通じてそれぞれの土地に友人が出来るのが楽しいという。

学生時代から外国語に興味があり、大学では英文学を専攻。だが就職して、英語が全く通じないロシア語圏の地域へ行くことに。身ぶり手ぶりで意思を伝えなければならない状況に新鮮さを感じたとともに、語学が出来ない人のつらさが身にしみた。

数年後に会社を辞めた後も外国や語学への関心は薄れず、留学の準備のためニューカレドニアを訪れた。そこで偶然出会った日本語教師に魅了され、自分もその道を目指すことに決めた。

しばらく地元の北海道で日本語教室の仕事をした後に、8年前、夫の転勤で豊田市にやってきた。実際に暮らし始めると、街中で日本語を話せずに困っている多くの外国人たちに目が留まった。

「海外を飛び回り日本語を教えたいと思っていたが、日本でも身近な人の役に立つことができるのでは」。自然と海外志向は消えていた。外国人労働者の多い豊田では、すでに外国の子どもたちへの学習教室はあった。もっと地元の人たちが気軽に外国人と接する機会を作りたいと考え、たどり着いた答えが、絵本の読み聞かせだった。

読み聞かせに参加する子どもたちはブラジルやフィリピン、ネパールといった国の出身で、日本語だけではなく英語も分からないという子が大半だ。それでも、カラフルな絵や、簡単な擬音語で表現されることが多い絵本は、言葉をあまり理解出来なくても理屈抜きに楽しめる。

ただ、活動を始めた頃は絵本を積み木代わりに遊んでしまう子もいたという。今では、出身や母国語の異なる子どもたちが、次々に日本語の絵本の世界にひきこまれていく。読み聞かせ後に、自由に好きな絵本を読む時間を設けているが、積極的に本を手に取る子どもが増えてきた。「友人たちと一緒に本を読む体験自体が、子どもたちにとっては貴重な時間です」

その日読んだ絵本の内容を親に教える子や、絵本を買ってほしいとねだる子が出てきており、「絵本を通じて親子のコミュニケーションも深まっている」と手応えを感じている。

日本在住の外国人に読書を身近に感じてもらう活動は、全国でも珍しい。これまでの活動内容をまとめて発信することで、他の地域でも活動の輪を広げていきたいと考えている。（橘薫）

２．助成金活用と会計報告

平成30年度　【おむすびころりん愛知】　収支報告書

会計年度　平成30年４月１日～31年３月３１日

収入の部

大科目	小科目	予算額（ア）	決算額（イ）	差引増減額（イ）－（ア）	内　　訳	備　　考
会費収入	正会員費	12,000	12,000	0	@3,000円×4名	
	一般会員	12,000	9,000	-3,000	@1,000円×9名	
	賛助会員	24,000	42,000	18,000	@3,000円×14口	
事業収入				0		
				0		
				0		
補助金収入	こども夢基金助成		135,000	135,000		
				0		
寄付金収入	寄付金		29,422	29,422		
雑収入	返金		8,520	8,520		デジタル絵本返金
	不明金		963	963		2019年4月21日小野確認
前年度繰越金	繰越金	11,361	11,361	0		
収入合計①		59,361	248,266	188,905		

支出の部

大科目	小科目	予算額（ア）	決算額（イ）	差引増減額（イ）－（ア）	内　　訳	備　　考
事業費	子ども夢基金事業		140,192	-140,192	多言語おはなし教室開催費用	別途会計資料あり
				0		
				0		
管理費	講師謝礼（報償費）	15,000	5,000	10,000	講師謝礼	
	翻訳とHP（報償費）	10,000	7,000	3,000	翻訳謝金	
	交通費	54,000	45,407	8,593	実費(但、車は¥15/km)	
	消耗品代（需用費）	10,000	6,742	3,258	コピー、トナー、ラミネートフィルム、領収書用紙	
	絵本（需用費）	20,000	34,754	-14,754	絵本	
	通信費（役務費）	2,000	1,148	852	書類郵送料、切手等	
	使用料、賃借料	0		0	会議室使用料	
	備品購入（備品費）	10,000	756	9,244	なわとび	
	ボランティア保険	3,600	3,000	3,000	300円×10名	
予備費	予備費	14,761	1,650	13,111	総会雑費	
支出合計②		139,361	245,649	-106,288		

当期収支差額

当期収支差額＝	収入合計①-	支出合計②	次期繰越金
	248,266	245,649	2,617

スタッフ萩原マリナさんのおかげで、ポルトガル語の絵本も増えました。

３．2018 年度の成果と課題

成果

・読み聞かせのスタッフ派遣は８０回、対象の子どもたちの延べ数約７６９名、読んだ本と紙芝居は１８９作品でした。

・読書指導者を招いたり、継承語についての知識を深めたりしてメンバーが学びあうことができました。

・子ども夢基金助成活動のお話教室実施により、外国にルーツを持つ子どもたちにかかわる人々との協働活動ができました。

・外国語の絵本を、メンバーが協力し合いながら集めることができました。

課題

・日本語が通じない子どもたちに対して、通訳を介さず読み聞かせをする際の選書についてまだまだ知識が足りない。

・母語で読んでくれるスタッフが足りない。

・団体の会計など会の運営にかかわる事務的な作業の負担を減らしたい。

４．2019 年度の目標

①読み聞かせ活動を続けます！

②今まで記録してきた活動報告を整理し、外国にルーツを持つ子どもを取り巻く人たちやその支援者たちに「読み聞かせお勧め絵本」の発信ができるよう、具体的に検討します。

③スタッフの勉強会を行い、読み聞かせの質の向上を目指します。

5．資料

【読み聞かせスタッフ派遣とおはなし教室開催】　８０回

	エスコーラ・ネクター	NPO トルシーダ	猿投台交流館おはなし会	その他	計
4 月	3		1		4
5 月	4	3	1	1	9
6 月	3	2	1		6
7 月	4	1	1		6
8 月		1			1
9 月	3	4			7
10 月	5	3	1		8
11 月	3	3	1		8
12 月	3	4		1	8
1 月	3	4	1		8
2 月	3	2	1		6
3 月	3	3		1	7
計	37	30	8	3	80

【読み聞かせをした子どもたちの母語(継承語)】

・フィリピノ語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、英語、中国語、韓国語、ルーマニア語、ベトナム語

【読み聞かせをした子どもたちの延べ人数】

７６９名

【読み聞かせをした絵本と紙芝居等の総数】

１８９作品